

令和5年度事業報告(決算用)

本年5月に新型コロナウイルス感染症は、第5類に区分移行されたが、未だに続く感染症対策をしながら、徐々に地域福祉等各事業も、その時の状況を考えながら多くが実施へと推移してきた。

令和5年度事業計画より

～事業別実施活動一覧～

1 住民活動支援事業

<方針> 山ノ内町で暮らす住民の日常的な生活を支援することを目的とした各事業の推進や、関係団体(当事者団体)への組織結成及び活動の支援、ネットワークづくりを推進する。

(1) 支援事業

ア 配食サービス

(受託事業) 1食 710円(利用者負担額 510円、(町補助 200円))、
(他に社協でも 100円程度負担に)

(原材料費、光熱水費等の高騰により) → R5.10.1～760円(利用者負担額 560円、(町補助 200円))、(他に社協でも 100円程度負担に)

月～水、金曜日 夕方の配食(テイクアウト後)

木曜日(49日) 昼の配食(ほのぼのランチ:ボランティア) 計 253日
(食数)

	上半期	夕食	ランチ	計	下半期	夕食	ランチ	計	合計
R5		2,024	711	2,735		1,852	709	2,561	5,296
R4		1,975	788	2,763		2,023	733	2,756	5,519
R3		2,312	692	3,004		1,940	754	2,694	5,698

・ほのぼのランチ研修・交流会(町担当者、社協会長を囲んで)

9.7(木), R6.2.29(木) ボランティアさん中心に参加

※ コロナ禍でありながら、命を守るお弁当として、1年間休まずに取り組みました。特に木曜日の“ほのぼのランチ”はボランティアさ

んの活動に感謝です。

イ 脳元気教室

町介護予防事業の一つのメニュー(受託事業:1回実施につき20(千円))

対象利用者 max.10名/回 毎週の金曜日実施

(上半期)23回(182名)、(下半期)21回(169名)

年間延べ計44回(351名)

(R4年度:45回、316名)

ウ 地域福祉活動推進団体支援事業(いきいきサロン支援)

(※ 昨年に引き続き、活動回数及び参加人数が増加(回復)しており、全15団体のうち12団体がサロン活動を実施した)

年度末活動費(助成金228,803円(例年の半分程)(R4:173,977

円)) 精算 ※開催実績から例年(10年前)の7割程度

年間延べ回数(56/R4:38)回数 (比較用)(R3:32)回

年間延べ人数(955/R4:667)人数

15団体(地区)登録で活動中

※ サロン代表者によるサロンの集い R6.2.4日実施 9名参加

エ 福祉団体支援事業

* 令和5年度は、身体障害者福祉協会が休会から解散により、同会への助成金支給無し

・身体障害者福祉協会、遺族会、手をつなぐ(知的障害者・親の)育成会、やまびこ(母子寡婦)福祉会(助成金無し)、つつみ住民活動センター運営委員会:(事務局・事業・団体補助金支援)

年度末活動費(助成金100,000円(例年の半分程)(R4:93,200円))

・更生保護女性会:(若干の事務局・事業支援のみ)

オ 重度障がい者外出支援事業(個別外出支援)

個別対応1件 (R4年度:2件)

(※ コロナ禍の中、開催時期を遅らせ7月～)

カ 高齢者いきがい活動支援事業(手芸教室)

手芸の会(毎月1回・第3週火曜)については講師手配し自主的に実施

(※ コロナ禍の中、事業再開等町介護予防事業に準じた。)

キ 障がい者支援事業(障がい者スポーツ・レクの開催等)

・北信大会の予行練習 中止

・北信地区障がい者スポーツ大会の支援 中止

・県障がい者スポーツ大会支援 (種目毎の個別開催の為、支援無し)

(※ コロナ禍の中、今年度も事業中止が多かった。)

ク 障がい者(児)社会参加支援事業(余暇活動)

“つばさの会” 毎回の参加者及び事業協力者は昨年と同数。

*活動回数は年6回実施(昨年度から2回増加し例年並みに戻った)

知的障害者等当事者(毎回20名程)の方に余暇活動実施

ケ 一人親支援事業(調査研究)

コ 一人暮らし高齢者支援事業(一人暮らし高齢者おたっしや会)は今年度も分散開催(参加費500円) 9/12 火/14木/15 金:コロナ禍により各公民館単位での開催(計57名が参加)

サ 一人暮らし高齢者安否確認事業(訪問見守り事業の充実:一部町からの受託事業)

※町委託事業として関わる職員の人件費等補助:718(千円)

町内該当者の内、462名中の方に訪問

訪問時に情報誌等を届ける

シ 介護者支援事業

(介護者リフレッシュ教室・介護者リフレッシュ旅行(日帰り))

・教室 8/29火 参加者10名 中野市宅老所施設見学

R6.2/27火 参加11名 介護用おむつ講座

・上記、内1回介護者リフレッシュ事業 10/19 新潟県寺泊方面

5名参加

ス 歳末助け合い運動(施設慰問・おせち料理購入補助)

県内社会福祉施設(町内出身者の入所等の障害者施設)へ山ノ内町特産のリンゴを送品・慰問

独居高齢者・生活保護世帯等の希望者へ約170個(2,800円相当:自己負担1,000円)のお節料理を町内仕出し組合・民生委員さんの協力により大晦日に配達

*原材料価の上昇に伴い、自己負担額増も検討したが、業者様の工夫・協力もあり今年度も1,000円に据え置いた。

セ 災害等支援活動(災害時住民支えあいマップ)

災害マップ 説明等支援(町より受託事業)

※R6.1.1 発生した能登半島地震における活動支援として、町内渋温泉旅館組合様の支援をいただき、R6.1,2月と都合4回の温泉提供を実施。

ソ 買い物弱者支援事業(町商工会、住民活動センター運営委員会と協働)

“わくわく商店街”として毎月第2・4水曜につつみ住民活動センターにて実施年間を通してほぼ通常通りの開催が出来た。

事業再開条件として、買い物のみの短時間開催、各地区毎滞在 30 分程度は継続。但し、お茶飲みコーナーを復活・設置した。

(概ね毎回参加者 60 名 + ボランティア・スタッフ 20 名 = 計 80 名程)

※8/23 水 わくわく商店街実行委員会総会

タ 福祉自動車貸出事業(車イス用リフト付き自動車)

通年を通してご利用いただく

・貸出 **延べ40回** 実施 (令和4年度:55回)

(2)福祉権利擁護事業・金銭貸付事業

ア 金銭管理・財産保全サービス

対象者 **14名** に対して実施

※町委託事業として関わる非常勤職員の人件費等補助:1,138(千円)

イ 日常生活自立支援事業(県モデル事業(H22~24の3年間)の後

現在、H25年度より準基幹:基幹社協同等の活動)

対象者 **40名** に対して実施(生活支援員:地域福祉係長他非常勤職員が
実質活動) **年間活動回数 1,245回**

ウ 暮らしの資金・高額医療費貸付事業(独自事業)

資料参照による貸付状況

年度内貸付額、償還額(別紙)

エ 生活福祉資金貸付事業

対象者13名に対して実施(県社協からの償還指導のサポート)

※コロナ禍による、総合支援資金・緊急小口資金(継続)に対応➡ク

(内訳 緊急小口資金 136名

総合支援資金 148名

総合支援資金(延長) 58名

総合支援資金(再延長) 97名 (R4.9.30まで貸付)

オ 生活困窮者自立支援事業における総合相談事業の受託

相談実績 893件

※町委託事業として関わる職員の人件費等補助:3,000(千円)

カ 法人後見制度に伴う「圏域内権利擁護センター」との連携

権利擁護:北信圏域域権利擁護センターとの連携実施

キ 学習支援事業(※ コロナ禍の中、事業縮小)

登録者(活動実施者)5名 に対応

ク **緊急小口資金等特例貸付実施後の相談支援体制強化事業**

※県社協委託事業として関わる職員の人件費等補助:7,000(千円)

(3)結婚相談所事業(受託事業)

ア 結婚相談所の開設(毎週火曜日 地域福祉センター1階相談室)

以下実施内容は **(別紙参照)**

**R3.6月1日より、地域おこし協力隊員の配属により、更なる出会いの
機会の創出等に力を入れて行く。**

2 人材育成事業

<方針> 住民主体による福祉活動を推進し、創造性豊かな住民活動(ボランティア活動)の中心となる人材の育成や福祉・生涯学習を積極的・計画的に推進する。更に、つつみ住民活動センターを拠点と位置づけ、住民や活動等をつなぐ「つながりの要(拠点)」として推進する。

(1)ボランティア育成・支援事業(ボランティアコーディネート)

ア ボランティア講座(講習会・セミナー)の開催

・フードドライブ、バンクボランティア 偶数月定期開催(6回開設)

(食品数472, 提供協力者17名)

・封筒づくりボランティア(偶数月の第一水曜日)

・ペットボトルキャップ集め

・新聞紙のごみ袋づくりボランティア

・託児ボランティア

・花壇の手入れボランティア 6/30 金 参加者12名

・浴衣の着付け教室 7/27 参加者6名

・切手整理ボランティア 8/1 火 参加者11名

・点字体験(手打ち・パソコン) 8/18 講師2名参加者7名

・認知症サポーター養成講座(9/4月 **23名参加**)

・傾聴講座 内山二郎先生 11/21 火、11/28 火 **参加者各回19名**

・男衆会議 燻製作り 10/27 金 参加者5名

しめ縄づくり 12/14 木 参加者9名、12/19 火 15名

・クリスマスリース作り 12/18 月 参加者9名

イ ボランティア交流会の開催

点字・音声サービス利用者とはボランティアの意見交換会

・ボランティア交流会 中止

・北信ブロックボランティアの集い(飯山市当番 なべくら高原)

11/16 9名参加

ウ ボランティア研修会・視察の実施

・ボランティア視察研修・交流会 9/22 諏訪市社会福祉協議会「まちの縁側さん」参加者 17名

エ 山ノ内町住民活動センター運営委員会(団体・個人)支援

“山ノ内町住民活動センター運営委員会”(つつみ住民活動センター内)支援
実施中 住民活動センター運営委員会総会 5/8月
つつみ住民活動センター 活動助成対象登録者数

団体 16グループ コロナ禍により活動縮小

(会員数257(R4:248)人 活動人数 1,397(R4:1,143)人

活動回数 282(R4:252)回)

年度末活動費(助成金)精算 240,000(円)

※開催実績から例年(10ヶ前)の6割程度

他年間を通して実施

わくわく商店街への協力

(R6.3.30(土)) 思い出のランドセル募金:20 個を超えるランドセルが集まり

全国組織からアガニスタンへ送品) その他古本等の収集も実施

各支援団体に送付

オ ボランティア情報誌“つつみこみ亭”の発行(年4回の季節号)

カ 住民活動センター運営委員会ホームページの充実

(<http://yamanouthi-zyukatu.org/>)

キ 外国人ボランティアの育成

(2)福祉学習事業

ア 福祉協力校(3小学校・中学校)への協力・支援(福祉学習の推進)

社会福祉推進校事業担当者会議 (4/18)

年度末活動費(助成金)精算(各校 30,000 円上限×4 校)

→実績計 120,000 円

イ 学生や一般町民を対象としたボランティア体験事業

夏休み切手整理ボランティア (夏休み 8/1火 11名参加)

福祉体験ボランティアスクール (地域福祉センターデイ、和也)

3 地域福祉啓発事業

<方針> 山ノ内町住民をはじめ、関係団体・機関に広く福祉情報を広め、地域福祉の推進に対する意識を高める。

(1)ふれあい広場の開催(企画・実行支援)

※ コロナ禍の中、規模を少し拡大して開催 10/15日

ミニステージ他 参加者約200名程

(2)社会福祉大会の開催

12/4(日) 来賓を含め各区長、民生委員を招き表彰式、ミニ講演会等を実施

※ 参加者約100名程

(3)地域福祉活動計画の作成(地域に出向き調査等)に向けた取組み

(4)社協広報誌“ちからこぶ”の発行(ボランティア情報誌の別冊発行)

毎月発行中(年4回はボランティア情報誌(つつみこみ亭)の別冊)

毎月前半(10日頃)発行(年4回ボランティア情報誌:情報誌委員会5名)

(5)社協ホームページ充実(<http://www.honobono-shakyo.or.jp>)

年間を通して実施

リニューアル済(ボランティアさんの力で)

(6)地域の縁側事業・居場所づくりの研究

検討している個人・団体等の支援

(7)地域の食堂事業とフードバンク・フードドライブの推進

みんなの食堂:ふれあい広場にて、おにぎりを販売

7/23日 ミニピザ作り、駄菓子、ニュースポーツ実施

R6.3/24日 おはぎづくり、駄菓子、ニュースポーツ実施

4 地域福祉関係事務

<方針> 山ノ内町の福祉向上につながる各種関係業務について行政と連携しながら、広く住民の理解をいただき積極的に水進する。

(1)日赤長野県支部山ノ内町分区事務

ア 赤十字募金の実施

寄付金・社費

活動資金(寄付金・社費)

総額 1,451,781円

(R4年度 1,585,520円)

イ 義援金等受付

ウクライナ、能登半島地震他

ウ 災害被災者支援(物品・見舞金)

エ 赤十字講習会の開催 7月中止、11/11土(AED)開催参加17名

オ 赤十字奉仕団事務

(2)長野県共同募金会山ノ内支会事務

ア 赤い羽根共同募金の実施

10/1～12/31 運動期間 **戸別募金他**

総額 1,789,888 円

(R4年度 1,845,371円)

※ 街頭募金の実施 10/7 土,22 日 道の駅

イ 災害被災者支援(見舞金)

ウ 共同募金委員会の設置の検討

5 サービス提供業務

<方針> 住民一人ひとりが安心して、また満足のいく生活ができるように、質の高い各種サービスの提供をする。

(利用状況は別表)

(1)居宅介護支援事業所の運営(介護保険法)

(2)通所介護事業所の運営(介護保険法・障害者総合支援法)

※地域福祉センターデイサービスの一部地域密着サービスへの区分の充実

(3)訪問介護事業所の運営

(介護保険法・障害者総合支援法)

(4)福祉用具貸与事業所の運営(介護保険法)

(5)就労継続支援(B型)事業所「ももの木」の運営(障害者総合支援法)

(6)障害者相談支援事業所「みのり」の運営(障害者総合支援法)→休止

(6)地域支援事業の

通所型サービスA事業所「和(なごみ)」の運営

訪問型サービスA事業所の運営

(7)地域活動支援センター「豆の家」の受託

(8)新規事業展開の検討・実施

ア 県次世代ヘルスケア産業協議会による、おもてなしの宿事業(訪問介護事業)の検討・実施

イ 生活支援コーディネーターの実施

※(1)～(4)の事業所では、ISO9001の認証取得に代わる、社内独自の品質マネジメントシステムによる、良質で充実したサービス提供の維持・向上をめざしています。

6 法人運営

<方針> 社会福祉協議会の推進する事業が適正に運営され、広く住民の理解がいただけるように、安定経営の維持、確立をめざす。

(1)理事会の充実・強化

毎月開催実施

町補助金他自助努力も含め経営改善に努める内容の取組を実施中

(2)役職員の研修・学習会の開催

地域の縁側づくり…を意識した、

原村社協、富士見町社協 の視察研修 10/16 月 理事・監事参加

(3)社協会費の加入促進

8~9月実施(別添資料)理事・監事による法人(今年度69社賛同)推進はしない

会費納入総額 3,425,835円

(R4年度 3,440,236円 (法人会費64社))

(※ コロナ禍の中ではあるが、数多くの賛同に感謝。)

(別紙ページ)資料参照

(4)経営診断事業実施

加えて県内5社協経営研修会の充実

(※ コロナ禍の中、今年度も開催は中止)

(5)個人情報保護に関すること

(6)社協職員の福利厚生 of 充実

(7)事業継続計画(BCP)の取組